

令和2年度用 わくわく算数6 単元別学習内容一覧

本資料は、令和2年度用教科書「わくわく算数6」に基づいて、学校での授業と、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学習指導計画案を示したものです。

学校の授業以外の場において取り組む学習活動をできるだけ多く取り入れる場合を想定して示した一例ですので、地域や学校の状況に合わせて、適宜、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を増減していただくなどしてご活用ください。なお、答え合わせについては、児童の実態に合わせて、学校の授業以外の場で児童自らが行うことや、学校の授業で短時間で行うことなどが考えられます。

平時に授業で行うことを想定していた学習活動のうち、学校の授業以外の場(**授業外**)で取り組むこととしている学習活動には**黄色のアミ**をつけています。

●一覧表の見方

2 文字と式					
目 標			指導時数・時期		
○ 数量やその関係について、 x や y を使って式に表したり文字式の意味を具体的に即して考えたりすることを通して、文字を使った式の理解や対応する値を求められるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			7時間(授業内5時間) 2学期制:4月下旬~5月中旬 3学期制:4月下旬~5月中旬		
(知)・○や△などの代わりに x などの文字を用いることを理解し、文字を使って数量やその関係を式に表したり、文字に数をあてはめて x などの値を求めたりすることができる。					
(思)・文字を使って表された式の意味を考察し、具体的に即しているいろによみとることができる。					
(他)・文字を使うよさがわかり、数量やその関係を連んで文字を使った式で表そうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ		250	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「変わり方」	・p.250の「②じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.284の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	26	○既習の○や△の代わりに x や y などの文字が使えることを知り、単元の課題をつかむ。	・文字を使うことの意味と学習の動機づけ	・予習として、p.26の問題に取り組み、本単元の学習内容の見直しをもつ。
①文字を使った式		27~28	○ x や y を使って式に表したり、 x や y の値を求めたりすることができる。	・ x や y を使って数量やその関係を式に表すこと、 x や y に数をあてはめて調べること (x の値、 y の値)	※本時の学習後であれば、p.31の「練習」の問題1・2は 授業外 で取り組ませることが可能。
	2	29	○ x や y を使ってやや複雑な数量の関係を式に表し、 x の値に対応する y の値を求めることができる。	・やや複雑な数量の関係($y=ax+b$)について文字を使った式を用いて調べること	※本時の学習後であれば、p.31の「練習」の問題3は 授業外 で取り組ませることが可能。
	3	30	○ x や y を使って数量の関係を式に表し、 x の値が小数の場合の y の値を求めることができる。	・文字を使った式に小数をあてはめて調べること	※本時の学習後であれば、p.31の「練習」の問題4は 授業外 で取り組ませることが可能。
●練習	4	31	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・ 授業外 で取り組む。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
②式のよみ方	5	32	○ある数量を x としてつくった式から具体的事象をよみとることができる。	・文字を使った式から、具体的事象をよみとること	※p.32の問題3の身のまわりから探す活動は 授業外 で取り組ませることが可能。
	6	33	○図形の面積を求めるのにある数量を a としたときの式から、面積をどのように考えて求めたかをよみとることができる。	・文字を使った式から、式の意味をいろいろ考察すること(三角形、台形、面積)	
学びのまとめ	7	34~35	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は 授業外 で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.282の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

7時間 (授業内5時間)

↓

平時の際の授業時数

↓

授業外で取り組む学習活動を除いた場合の時数

予習や復習として、**授業外**で取り組むことができる学習活動の例

※は指導上の留意点

黄色のアミ

平時に授業内で扱うことを想定した学習活動のうち、**授業外**で取り組むことができる学習活動の例

●年間配当時数

	1 学期	2 学期	3 学期	年間
平時の際の時数	56 (予備時数 9)	56 (予備時数 14)	29 (予備時数 11)	141 (予備時数 34)
授業外(黄色のアミ) を除いた場合の時数	45 (予備時数 20)	45 (予備時数 25)	17 (予備時数 23)	107 (予備時数 68)

第6学年 単元別学習内容一覧

◎ わくわく算数学習					
目 標					指導時数・時期
○ 割合の和や差を考える学習について、図、式、ことばなどを関連づけて考えたり筋道立てて説明しあったりすることを通して割合についての理解を深めるとともに、学びを深めあう算数学習の進め方のよさに気づき今後の学習にいかそうとする態度を養う。					1時間 (授業内1時間) 2学期制：4月上旬 3学期制：4月上旬
(知)・算数学習を進める手順や、ことばや図や式などを用いて考え、説明する仕方を知る。また、話し合いのよさなどを理解し、それらに必要な事柄を取り上げることができる。					
(思)・図、式、ことばなどを関連づけて考えたり、わかりやすく筋道立てて説明したりすることができる。					
(態)・学習の進め方に関心を持ち、話しあい活動や発表に進んで取り組もうとする。学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り、これからの学習にいかそうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
(課題設定)	1	6～9	○割合の増減から何倍になるかを考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。	・割合の和や差を考えて解く問題(第2, 3用法) ・学習の進め方, ノートのかき方	

1 対称な図形					
目 標					指導時数・時期
○ 図形の対称性について、図形を折り重ねたり回したりする活動を通して線対称や点対称の意味を理解し、対称な図形の性質や作図の仕方を考えたり多角形の対称性を調べたりすることを通して、平面図形の見方・考え方を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					9時間 (授業内8時間) 2学期制：4月上旬～4月下旬 3学期制：4月上旬～4月下旬
(知)・対称の軸や対称の中心、対応する点や直線の意味を理解することができる。また、操作活動を通して、線対称・点対称な形を理解し、作図することができる。					
(思)・対称性に着目して、正多角形を考察し、対称の軸の数、対称の中心を明らかにすることができる。					
(態)・日常生活の中には、美しい形、整った形があることに興味を持ち、図形の対称性に着目しながら意欲的に調べようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	250	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「合同な図形」	・p.250の「①じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.284 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	10～13	○身のまわりの整った形の特徴に気づき、対称性について調べていくという単元の課題をつかむ。	・対称性の観点からの弁別と学習の動機づけ	・予習として、p.10-11の写真を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①線対称	2	14～15	○線対称の意味を理解し、対称の軸で折り重ねたときに重なる点や直線を調べる。	・線対称な図形の定義、点、線、角の対応 ・身のまわりの線対称な形 《線対称、対称の軸》	※p.15の問題5の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。
	3	16	○対称の軸に着目し、線対称な図形の性質を調べる。	・線対称な図形の性質	
	4	17	○線対称な図形の性質を用いて、線対称な図形をかくことができる。	・線対称な図形の作図	
②点対称	5	18～19	○点対称の意味を理解し、対称の中心で回して重ねたときに重なる点や直線を調べる。	・点対称な図形の定義、点、線、角の対応 ・身のまわりの点対称な形 《点対称、対称の中心》	※p.19の問題5の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。
	6	20	○対称の中心に着目し、点対称な図形の性質を調べる。	・点対称な図形の性質	
	7	21	○点対称な図形の性質を用いて、点対称な図形をかくことができる。	・点対称な図形の作図	
③多角形と対称	8	22～23	○対称性の観点から既習の図形をとらえ直し、対称の軸の数、対称の中心を見つけることができる。	・いろいろな三角形や四角形の対称性 ・正多角形の対称性	・予習として、p.22の「めあて」を確認し、これまでの学習をもとに問題1・2で取り上げた図形の対称性について調べる。
学びのまとめ	9	24～25	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QR コンテンツや p.282 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

2 文字と式

目 標					指導時数・時期
○ 数量やその関係について、 x や y を使って式に表したり文字式の意味を具体的に即して考えたりすることを通して、文字を使った式の理解や対応する値を求めることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					7時間 (授業内 5時間) 2学期制：4月下旬～5月中旬 3学期制：4月下旬～5月中旬
(知)・○や△などの代わりに x などの文字を用いることを理解し、文字を使って数量やその関係を式に表したり、文字に数をあてはめて x などの値を求めたりすることができる。					
(思)・文字を使って表された式の意味を考察し、具体的に即していろいろによみとることができる。					
(態)・文字を使うよさがわかり、数量やその関係を進んで文字を使った式で表そうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	250	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「変わり方」	・p.250の「②じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.284の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	26	○既習の○や△の代わりに x や y などの文字が使えることを知り、単元の課題をつかむ。	・文字を使うことの意味と学習の動機づけ ・ x や y を使って数量やその関係を式に表すこと、 x や y に数をあてはめて調べること 《 x の値、 y の値》	・予習として、p.26の問題に取り組み、本単元の学習内容の見直しをもつ。 ※本時の学習後であれば、p.31の「練習」の問題1・2は授業外で取り組ませることが可能。
①文字を使った式		27～28	○ x や y を使って式に表したり、 x や y の値を求めたりすることができる。		
	2	29	○ x や y を使ってやや複雑な数量の関係を式に表し、 x の値に対応する y の値を求めることができる。	・やや複雑な数量の関係 ($y=ax+b$) について文字を使った式を用いて調べること	※本時の学習後であれば、p.31の「練習」の問題3は授業外で取り組ませることが可能。
	3	30	○ x や y を使って数量の関係を式に表し、 x の値が小数の場合の y の値を求めることができる。	・文字を使った式に小数をあてはめて調べること	※本時の学習後であれば、p.31の「練習」の問題4は授業外で取り組ませることが可能。
●練習	4	31	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・授業外で取り組む。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
②式のみ方	5	32	○ある数量を x としてつくった式から具体的事象をよみとることができる。	・文字を使った式から、具体的事象をよみよること	※p.32の問題3の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。
	6	33	○図形の面積を求めるのにある数量を a としたときの式から、面積をどのように考えて求めたかをよみとることができる。	・文字を使った式から、式の意味をいろいろ考察すること(三角形、台形の面積)	
学びのまとめ	7	34～35	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.282の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

3 分数×整数、分数÷整数

目 標					指導時数・時期
○ 分数と整数の乗除について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して、分数と整数の乗除計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 分数に整数をかけたり、整数でわったりする計算の仕方を理解し、計算することができる。					2時間 (授業内 2時間) 2学期制：5月中旬 3学期制：5月中旬
(知)・分数に整数をかけたり、整数でわったりする計算ができる。					
(思)・分数の意味をもとに、分数に整数をかけたり、整数でわったりする計算の仕方を考えることができる。					
(態)・分数に整数をかけたり、整数でわったりする計算に進んで取り組もうとしている。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	251	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「分数」	・p.251の「③じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.284の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	36	○既習の計算をもとに(分数)×(整数)を立式し、単元の課題をつかむ。	・分数×整数の立式と学習の動機づけ	・予習として、p.36の問題に取り組み、本単元の学習内容の見直しをもつ。
		37	○(分数)×(整数)の計算の仕方を考えることができる。	・分数×整数の計算の仕方、途中で約分すること	
	2	38～39	○(分数)÷(整数)を立式し、その計算の仕方を考えることができる。	・分数÷整数の立式とその計算の仕方	

* 復習					指導時数・時期
					1時間 (授業内 0時間) 2学期制：5月中旬 3学期制：5月中旬
小単元	時	ページ	目標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	40～41	○既習事項の確認と持続	・復習	・授業外で取り組む。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

4 分数×分数

目 標					指導時数・時期
○ 分数をかける計算や逆数について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して分数のかけ算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					13時間 (授業内 11時間) 2学期制：5月中旬～6月上旬 3学期制：5月中旬～6月上旬
(知)・分数をかける計算の意味を十分に理解し、計算することができる。また、逆数の意味や分数の計算においても交換法則や結合法則、分配法則が成り立つことを知る。					
(思)・分数の意味分数に分数をかける計算の意味や仕方を、筋道立てて考えることができる。					
(態)・分数に分数をかける計算に進んで取り組もうとしている。また、分数のかけ算を活用して、いろいろな問題を解決しようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	251	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「小数のかけ算」「分数」 ・6年「分数×整数、分数÷整数」	・p.251の「④じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.284の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	42	○分数をかけるかけ算について考えていくという単元の課題をつかむ。 ○(分数)×(単位分数)の場面を式に表し、乗法の意味について考え、理解することができる。 ○(分数)×(単位分数)の計算の仕方を考えることができる。 ○(分数)×(分数)の計算の仕方を考え、理解することができる。 ○(整数)×(分数)や(帯分数)×(帯分数)の計算をすることができる。 ○小数と分数が混合したかけ算の仕方を理解し、その計算ができる。	・既習のふりかえりと分数をかける学習の動機づけ	・予習として、p.42の問題に取り組み、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①分数をかける計算		43		・(分数)×(単位分数)の立式とその根拠	
	2	44		・(分数)×(単位分数)の計算の仕方	
	3	45		・(分数)×(分数)の立式とその計算の仕方	※本時の学習後であれば、p.49の「練習」の問題1・2は授業外で取り組ませることが可能。
	4	46		・整数や帯分数を含む分数のかけ算	
	5	47		・小数と分数のかけ算、3口のかけ算	・予習として、p.47の「めあて」を確認し、これまでの学習をもとに問題1・3で取り上げた計算に取り組む。 ※本時の学習後であれば、p.49の「練習」の問題3・4は授業外で取り組ませることが可能。
	6	48		・乗数と積の大きさの関係	※本時の学習後であれば、p.49の「練習」の問題5は授業外で取り組ませることが可能。
●練習	7	49	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・授業外で取り組む。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
②分数のかけ算を使って	8	50	○辺の長さが分数の場合にも、面積や体積の求積公式が使えることを確かめることができる。	・辺の長さが分数値の場合の面積や体積の求積	
	9	51	○分数で表された時間について理解し、それを使った問題を解くことができる。	・時間が分数で表された問題 (速さ)	
	10	52～53	○数量の関係が分数倍(割合)で表された場面で、分数倍(割合)や比較量を求めることができる。	・割合が分数で表された問題 (第1, 2用法)	
	11	54	○逆数の意味を理解し、逆数を求めることができる。	・逆数の意味、分数・整数・小数の逆数の求め方 《逆数》	
	12	55	○分数の場合にも分配法則や交換法則、結合法則が成り立つことを確認し、それらを適用して工夫して計算することができる。	・分数の計算の交換法則、結合法則、分配法則	

学びのまとめ	13	56～57	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は 授業外で取り組む。「たしかめよう」については，QR コンテンツや p.282 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば，個別に支援する。
--------	----	-------	----------------	----------------	--

5 分数÷分数

目 標					指導時数・時期
○ 分数でわる計算について，その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して分数のわり算になる場面をとらえて計算できるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。					11 時間 (授業内 9 時間) 2 学期制：6 月中旬～6 月下旬 3 学期制：6 月中旬～6 月下旬
(知) ・分数でわる計算の意味を十分に理解し，計算することができる。 (思) ・分数でわる計算の意味や仕方を，筋道立てて考えることができる。 (態) ・分数でわる計算に進んで取り組もうとしている。また，分数のわり算を活用して，いろいろな問題を解決しようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	252	○既習事項の理解を確かめる。	・5 年「小数のわり算」 ・6 年「分数×分数」	・p.252 の「⑤じゅんぴ」に取り組み，QR コンテンツや p.284 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば，個別に支援する。
(課題設定) ①分数でわる計算	1	58	○分数でわるわり算について考えていくという単元の課題をつかむ。 ○(分数)÷(単位分数)の場面を式に表し，除法の意味について考え，理解することができる。 ○(分数)÷(単位分数)の計算の仕方を考えることができる。 ○(分数)×(分数)の計算の仕方を考え，理解することができる。 ○(帯分数)÷(分数)や(整数)÷(分数)の計算をすることができる。 ○小数と分数が混合したかけ算の仕方を理解し，その計算ができる。	・既習のふりかえりと分数でわる学習の動機づけ ・(分数)÷(単位分数)の立式とその根拠	・予習として，p.58 の問題に取り組み，本単元の学習内容の見通しをもつ。
		59		・(分数)÷(単位分数)の計算の仕方	
	2	60		・(分数)×(分数)の立式とその計算の仕方	※本時の学習後であれば，p.65 の「練習」の問題 1・2 は授業外で取り組ませることが可能。
	3	61		・整数や帯分数を含む分数のわり算	
	4	62		・小数と分数のわり算，3 口や乗除混合の計算	・予習として，p.63 の「めあて」を確認し，これまでの学習をもとに問題 1・3 で取り上げた計算に取り組む。 ※本時の学習後であれば，p.65 の「練習」の問題 3・4 は授業外で取り組ませることが可能。
	5	63		・除数と商の大きさの関係	※本時の学習後であれば，p.65 の「練習」の問題 5 は授業外で取り組ませることが可能。
●練習	7	65	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・授業外で取り組む。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば，個別に支援する。
②分数のわり算を使って	8	66	○時間や道のりが分数で表された速さに関する問題を解くことができる。	・時間や道のりが分数で表された問題(速さ)	
	9	67	○数量が分数で表された場面で，割合を求めることができる。	・割合が分数で表された問題(第 1 用法)	
	10	68～69	○割合や数量が分数で表された場面で，基準量を求めることができる。	・割合が分数で表された問題(第 3 用法) ・コラム「文と図と式」	
学びのまとめ	11	70～71	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は 授業外で取り組む。「たしかめよう」については，QR コンテンツや p.282 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば，個別に支援する。

6 資料の調べ方

目 標					指導時数・時期
○ 資料のちらばりについて、ドットプロット・度数分布表・ヒストグラムを用いた分類・整理の仕方や代表値の意味を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					9時間 (授業内 8時間) 2学期制：6月下旬～7月中旬 3学期制：6月下旬～7月中旬
(知) ・ドットプロット、度数分布表やヒストグラムを使って資料を整理したり、資料から代表値を求めたりすることができる。また、統計的な問題解決の方法を理解することができる。					
(思) ・代表値や表・グラフをもとに適切に判断したり、集めた資料を整理するのに適切な表現方法を選択したりすることができる。また、得られた結論について多面的に考えることができる。					
(態) ・代表値や表・グラフのよさや統計的な問題解決の方法を知り、身のまわりの事柄などを調べるときにそれをいかそうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	252	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「表とグラフ」 ・5年「平均とその利用」	・p.252の「⑥じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツや p.284 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	72	○資料やそのくらべ方について考えることを通して、単元の課題をつかむ。	・資料のちらばりの考察と学習の動機づけ	・予習として、p.72の表を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①資料の整理		73～74		・平均値や最大値、最小値を調べ、比較すること 《平均値》	
	2	75		○ドットプロットについて知り、それを使って資料の特徴を見いだすことができる。	
	3	76～77	○ドットプロットの考察を通して、中央値や最頻値の意味を理解し、それを使って資料の特徴を見いだすことができる。	・代表値の意味とその比較 ・コラム「目的にあわせた代表値の利用」 《中央値、最頻値》	
②ちらばりのようすを表す表・グラフ	4	78～79	○度数分布表について知り、それを使って資料の特徴を見いだすことができる。	・度数分布表を用いたちらばりの考察 ・コラム「度数分布表・度数」 《階級》	
	5	80～81	○度数分布表をもとに、ヒストグラムをかくことができる。	・ヒストグラムに整理すること 《ヒストグラム》	
	6	82～83	○複数のグラフから情報を適切によりとることができる。	・経年変化のヒストグラム、複数のグラフ関連づけて考察すること ・身のまわりのヒストグラム	※p.83の問題2の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。
③資料の調べ方を使って	7・8	84～85	○統計的な問題解決の方法について知り、身のまわりの課題解決にいかそうとする。	・統計的な問題解決の方法	・予習として、p.84の問題1を確認して、どんなことを調べてみたいかを考える。 ※調べたことを整理する活動は授業外で取り組ませることが可能。
学びのまとめ	9	86～87	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツや p.282 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

活 わくわく算数ひろば

					指導時数・時期
					2時間 (授業内 1時間) 2学期制：7月中旬 3学期制：7月中旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
●どんな計算になるのかな	1	88～89	○根拠にもとづいて、分数のかけ算やわり算の演算決定をすることができる。	・分数の乗除計算の演算決定	・予習として、p.88の内容を確認して、これまでの学習をもとに p.89の問題に取り組む。(授業内 0.5時間)
●算数の自由研究	2	90～91	○「もようづくり」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。	・身のまわりにある模様づくり(円を活用した作図) ・自由研究の進め方	・テーマを決めて探究する活動は授業外で取り組む。(授業内 0.5時間)

* 復習					指導時数・時期
					1 時間 (授業内 0 時間)
2 学期制：7 月中旬					
3 学期制：7 月中旬					
小単元	時	ページ	目標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	92～93	○既習事項の確認と持続	・復習	・授業外で取り組む。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

7 円の面積					
目標					指導時数・時期
○ 円の面積について、その求め方や公式を考えたり説明したりすることを通して、円や円弧を含む複合図形の面積を求めることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					5 時間 (授業内 4 時間)
(知) ・円の面積の求め方とその公式を理解し、公式を使って円の面積を求めたり、円弧を含む複合図形の面積を求めたりすることができる。					2 学期制：7 月中旬～9 月上旬
(思) ・円の面積の求め方やその公式、また、円弧を含む複合図形の面積の求め方を考えることができる。					3 学期制：9 月上旬
(態) ・見積りや様々な操作活動を通して、円の面積を既習の図形の面積と関連づけて考えようとする。					
小単元	時	ページ	目標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	253	○既習事項の理解を確かめる。	・5 年「円と正多角形」	・p.253 の「㉗じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.284 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	94 95	○円の面積の求め方を調べていくという単元の課題をつかむ。 ○正方形の面積を利用して、円のおよその面積を見当づける。	・既習の平面図形の面積をふりかえることによる円の面積の学習の動機づけ ・正方形で挟み込んだ円の面積の見当づけ	・予習として、p.94 の図を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
	2	96～97	○方眼を利用して、円のおよその面積を見積もる。	・方眼を利用した円の面積の見当づけ	
	3	98～99	○円の面積の求め方を考え、求積公式を導く。	・円の面積の求め方と求積公式	
	4	100～101	○円弧を含む複合図形の面積の求め方を考える。	・円弧を含む複合図形の面積の求め方	
学びのまとめ	5	102～103	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QR コンテンツや p.283 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

8 立体の体積					
目標					指導時数・時期
○ 柱体の体積について、その求め方や公式を考えたり説明したりすることを通して、体積を求めることができるようにしたり立体図形の見方・考え方を深めたりするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					5 時間 (授業内 4 時間)
(知) ・柱体の体積の求め方とその公式を理解し、公式を使って柱体の体積を求めたり、複合図形の体積を求めたりすることができる。					2 学期制：9 月上旬～9 月中旬
(思) ・直方体の体積の求め方をもとに、角柱や円柱の体積の求め方やその公式、また、複合図形の体積の求め方を考えることができる。					3 学期制：9 月中旬～9 月下旬
(態) ・直方体の体積の学習をいかし、柱体の体積の学習に進んで取り組もうとする。					
小単元	時	ページ	目標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	253	○既習事項の理解を確かめる。	・5 年「体積」「角柱と円柱」	・p.253 の「㉘じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.284 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	104 105～106	○柱体の体積の求め方を調べていくという単元の課題をつかむ。 ○直方体やその半分の三角柱の体積が、(底面積)×(高さ)で求められることを理解する。	・既習の立体図形の体積をふり返ることによる柱体の体積の学習の動機づけ ・四角柱(直方体)とその半分の三角柱の体積の求め方 《底面積》	・予習として、p.104 の図を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
	2	107	○三角柱の体積が(底面積)×(高さ)で求められることを理解し、それをもとに角柱の体積の求め方を考えることができる。	・角柱の体積の求め方とその公式	

	3	108	○角柱の体積が(底面積)×(高さ)で求められることをもとに、円柱の体積の求め方を考えることができる。	・円柱の体積の求め方とその公式	
	4	109	○複合図形を柱体ととらえて、(底面積)×(高さ)で体積を求めることができる。	・複合図形の体積の求め方	
学びのまとめ	5	110～111	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.283の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

9 比とその利用					
目 標				指導時数・時期	
○ 比について、その表し方や比の値、等しい比の意味を理解し、割合が比で表された問題を解決することを通して、割合の見方・考え方を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8時間 (授業内6時間) 2学期制：9月中旬～10月上旬 3学期制：9月下旬～10月上旬	
(知)・比の意味と表し方を理解し、比を用いて表したり、等しい比をみつめて比を簡単にしたりすることができる。					
(思)・比を用いて考え、問題を解決することができる。					
(態)・比のよさがわかり進んで活用しようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	254	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「割合」「分数」 ・6年「分数÷分数」	・p.254の「㊟じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.284の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	112	○2つの量の大きさの割合の表し方を調べていくという単元の課題をつかむ。 ○比の意味とその表し方を理解する。	・混ぜた割合の表し方を考えることによる学習の動機づけ ・比を使った割合の表し方、比の意味《比、:》	・予習として、p.112の問題に取り組み、本単元の学習内容の見通しをもつ。 ※p.113の問題3の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。
①比		113			
②等しい比	2	114～115	○比の値や比が等しいことの意味を理解し、比の値を求めたり、比が等しいかどうかを調べたりすることができる。	・比が等しいことの意味、比の値の意味《比の値》	※本時の学習後であれば、p.119の「練習」の問題1・2は授業外で取り組ませることが可能。
	3	116～117	○等しい比の性質について理解し、それを用いて比を簡単にすることができる。	・等しい比の性質、比を簡単にすること	※本時の学習後であれば、p.119の「練習」の問題3・4は授業外で取り組ませることが可能。
	4	118	○小数や分数を使って比を表し、それを簡単な整数の比にすることができる。	・数量が小数や分数で表されたときの比と比の値	※本時の学習後であれば、p.119の「練習」の問題5・6は授業外で取り組ませることが可能。
●練習	5	119	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・授業外で取り組む。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
③比を使った問題	6	120	○比と一方の値から、もう一方の値を求めることができる。	・比を使った割合の問題	
	7	121	○ある量をきまった比に分けたときのそれぞれの量を求めることができる。	・全体を決まった比に分ける問題	
学びのまとめ	8	122～123	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.283の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

思 表を使って考えよう(1)					
目 標				指導時数・時期	
○ 文章題において、数量の関係を表に整理して条件にあう場合に注目して解法を考えることを通して、順序良く調べようどよい場合を見つける考え方を使って解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				2時間 (授業内2時間) 2学期制：10月上旬 3学期制：10月上旬	
(知)・表を使ってすべての場合を順序よく整理し、調べることができる。					
(思)・表をもとにして、条件にあう場合を見つけたり、条件にあう場合のきまりを考えたりすることができる。					
(態)・表を使うことのよさに気づき、進んですべての場合を順序よく表に整理しようとする。					

小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	124	○2つのものの組み合わせ方とその結果を表にかいて順序よく調べ、条件に合うときのきまりを見つけ、問題解決できる。	・表を使って順序よく調べ、条件に合うすべての場合を見つけて解く問題	
	2	125	○2つのものの組み合わせ方とその結果を表にかいて順序よく調べ、条件に合う場合を見つけたて問題解決できる。	・表を使って順序よく調べ、条件に合う場合を見つけて解く問題	

* 復習					指導時数・時期
					1 時間 (授業内 0 時間) 2 学期制：10 月中旬 3 学期制：10 月中旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	126～127	○既習事項の確認と持続	・復習	・授業外で取り組む。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

10 図形の拡大と縮小					
目 標					指導時数・時期
○ 図形の拡大・縮小について、図形を観察する活動を通して拡大・縮小の意味を理解し、拡大図・縮図の性質や作図の仕方を考えたり縮図を用いて距離を調べたりすることを通して、平面図形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					10 時間 (授業内 8 時間) 2 学期制：10 月中旬～11 月上旬 3 学期制：10 月中旬～11 月上旬
(知) ・図形の拡大や縮小の意味を理解し、頂点、辺、角の対応をみつけて拡大図や縮図を作図することができる。 (思) ・拡大や縮小の観点から既習の基本図形の性質を考えたり、拡大図や縮図の作図を通して形や大きさのきまり方を考えたりすることができる。 (態) ・身のまわりや既習の図形の見方に関心をもち、進んで拡大図や縮図の性質調べや作図などに取り組もうとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	254	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「合同な図形」	・p.254の「@じゅんぴ」に取り組み、QR コンテンツや p.284 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	128～129	○方眼上にかかれた形の関係を考察することを通して拡大・縮小の意味を理解し、単元の課題をつかむ。	・図形の拡大、縮小の意味をとらえることと学習の動機づけ	・予習として、p.128の写真を確認して、本単元の学習内容の見通しをもつ。
①拡大図と縮図	2	130～131	○形が同じ2つの図形の直線、角の対応を調べ、対応する直線の長さや角の大きさの関係を理解する。	・拡大図、縮図の意味とその性質 《拡大図、縮図》	※本時の学習後であれば、p.139の「練習」の問題1・2は授業外で取り組ませることが可能。
②拡大図と縮図のかき方	3	132～133	○方眼を使って、図形の拡大図、縮図をかきことができる。	・方眼紙を使った拡大図、縮図のかき方	
	4	134	○合同な三角形のかき方をもとに、三角形の拡大図、縮図のかき方を考えることができる。	・三角形の拡大図、縮図の作図	
	5	135	○三角形の拡大図、縮図のかき方をもとにして、四角形の拡大図、縮図のかき方を考えることができる。	・四角形の拡大図、縮図の作図	※本時の学習後であれば、p.139の「練習」の問題3は授業外で取り組ませることが可能。
	6	136～137	○1つの点を中心にして、拡大図、縮図をかきことができる。	・1つの点を中心にした拡大図、縮図のかき方	※本時の学習後であれば、p.139の「練習」の問題4は授業外で取り組ませることが可能。
	7	138	○形が同じかどうかの観点から既習の図形をとらえ直し、拡大、縮小の関係にあるかを考える。	・基本図形における拡大、縮小の関係の考察	※p.138の問題2の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。
●練習	8	139	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・授業外で取り組む。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
③縮図の利用	9	140～141	○縮図を利用して、直接測定できない2点間の距離を求めることができる。	・縮図を利用した測定	

学びのまとめ	10	142～143	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は 授業外で取り組む。「たしかめよう」については，QR コンテンツや p.283 の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内 0 時間) ※児童がわからなかった問題があれば，個別に支援する。
--------	----	---------	----------------	----------------	--

11 およその形と大きさ					
目 標					指導時数・時期
○ 面積や体積の概測について，ものの概形のとらえ方を理解し，そのおよその面積や体積の求め方を考えたり説明したりすることを通して，ものの形の見方・考え方を深めたりするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2 時間 (授業内 2 時間) 2 学期制：11 月上旬 3 学期制：11 月上旬
(知) ・身のまわりの物の概形をとらえて，そのおよその面積や体積を手際よく求める方法を理解し，概測することができる。					授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
(思) ・身のまわりの物の概形を考えたり，そのおよその面積や体積の求め方を考えたりすることができる。					
(態) ・目的にあわせて身のまわりの物の概形をとらえようとしたり，概測のよさを知って活用しようとしたりする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	
じゅんぴ	—	254	○既習事項の理解を確認する。	・5 年「面積」 ・6 年「立体の体積」	・p.254 の「㉑じゅんぴ」に取り組み，QR コンテンツや p.284 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば，個別に支援する。
(課題設定)	1	144 145	○概形をとらえて，およその面積を求めることができる。	・概測の学習の動機づけ ・平面的に概形をとらえて面積を概測すること	・予習として，p.144 の写真を確認して，本単元の学習内容の見通しをもつ。 ※p.145 の問題 2 の身のまわりのものについて調べる活動は授業外で取り組ませることが可能。
	2	146～147	○概形をとらえて，およその体積を求めることができる。	・立体的に概形をとらえて体積を概測すること	※p.146 の問題 4 の身のまわりのものについて調べる活動は授業外で取り組ませることが可能。

12 比例と反比例					
目 標					指導時数・時期
○ 伴って変わる 2 つの数量について，比例や反比例の意味を理解し，その変化の様子や関係を式，表，グラフを用いて調べたり考えたりすることを通して，関数的な見方・考え方を深めるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。					17 時間 (授業内 14 時間) 2 学期制：11 月上旬～12 月上旬 3 学期制：11 月上旬～12 月上旬
(知) ・比例や反比例の意味や性質を理解し，比例や反比例の関係を，式や表，グラフに表すことができる。					授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
(思) ・数量の変わり方や関係に着目して比例や反比例する事象について考えたり，比例関係を利用して問題を解決したりすることができる。					
(態) ・身のまわりの伴って変わる 2 つの数量が比例や反比例の関係にあるかを進んで調べようとしたり，また，比例の関係を利用して身のまわりの問題を解決しようとしたりする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	
じゅんぴ	—	255	○既習事項の理解を確認する。	・6 年「文字と式」	・p.255 の「㉒じゅんぴ」に取り組み，QR コンテンツや p.284 の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば，個別に支援する。
(課題設定)	1	148～149	○いろいろな伴って変わる 2 つの数量の関係を調べることを通して，単元の課題をつかむ。	・伴って変わる 2 つの数量を見つけ，変わり方を比較することによる学習の動機づけ	・予習として，p.148・149 の問題に取り組み，本単元の学習内容の見通しをもつ。
①比例		150	○比例する 2 量の変化を詳しく調べ，比例の意味と性質について理解することができる。	・比例の意味 《比例する》	
	2	151	○比例する 2 量の関係を調べ，2 量の比が一定であることを理解する。	・比例の性質 (商一定)	
	3	152	○伴って変わる 2 つの数量が比例しているかどうかを判断し，そのわけを説明することができる。	・比例するかどうかの判断，身のまわりの比例する 2 つの量	※p.152 の問題 7 の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。 ※本時の学習後であれば，p.162 の「練習」の問題 1・2 は授業外で取り組ませることが可能。
	4	153	○比例する 2 量の関係を式に表すことができる。	・比例の関係を式に表すこと	※本時の学習後であれば，p.162 の「練習」の問題 3 は授業外で取り組ませることが可能。

	5	154～156	○比例の式をもとにグラフをかき、その特徴を理解する。	・比例の関係をグラフに表すこと	
	6	157	○比例する2量の関係を、式に表したりグラフに表したりすることができる。	・比例関係を式に表し、グラフにかくこと	
	7	158～159	○比例のグラフをよみ取ることができる。	・比例のグラフのよみとり（速さ）	
	8	160～161	○伴って変わる2量を見つけ、表、式、グラフを使って変化や関係をとらえ、比例しているかどうかを判断することができる。	・表、式、グラフを使った比例関係の考察	※本時の学習後であれば、p.163の「練習」の問題4・5は授業外で取り組ませることが可能。
●練習	9	162～163	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・授業外で取り組む。（授業内0時間） ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
②比例を使って	10	164～165	○比例関係を利用して、工夫して全体のおよその数を求めることができる。	・比例関係を利用して解く問題	
	11	166～167	○2本の比例のグラフから、いろいろな事柄をよみ取ることができる。	・2本の比例のグラフをよみとる問題	
(課題設定)	12	168	○反比例する2量の変化や関係を調べ、反比例の意味や性質を理解する。	・反比例の関係を学習する動機づけ ・反比例の意味と性質	・予習として、p.168で取り上げた2つの場面の違いを確認して、本小単元の学習内容の見通しをもつ。
③反比例		169～170			
	13	171	○伴って変わる2つの数量が反比例しているかどうかを判断し、そのわけを説明することができる。	・反比例するかどうかの判断、身のまわりの反比例する2つの量	※p.171の問題5の身のまわりから探す活動は授業外で取り組ませることが可能。 ※本時の学習後であれば、p.175の「練習」の問題1・2は授業外で取り組ませることが可能。
	14	172	○反比例する2量の関係を式に表すことができる。	・反比例の関係を式に表すこと	※本時の学習後であれば、p.175の「練習」の問題3は授業外で取り組ませることが可能。
	15	173～174	○反比例の式をもとにグラフをかき、その特徴を理解する。	・反比例の関係をグラフに表すこと ・コラム「曲線で表されたグラフ」	※本時の学習後であれば、p.175の「練習」の問題4は授業外で取り組ませることが可能。
●練習	16	175	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・授業外で取り組む。（授業内0時間） ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
学びのまとめ	17	176～177	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.283の解答を参照して答え合わせも行ふ。（授業内0時間） ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

思 表を使って考えよう(2)

目 標					指導時数・時期
○ 文章題において、数量の変化を表に整理してその和や差に着目して解法を考えることを通して、変わり方のきまりをみつける考え方を使って解くことができるようにするとともに、用いた表や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2時間（授業内2時間） 2学期制：12月上旬 3学期制：12月上旬
(知) ・表を使って変化する2つの数量の和や差を調べることができる。 (思) ・表を使って変化する2つの数量の和や差の規則性を考え、問題を解決することができる。 (態) ・表を使うことよき気づき、進んで表を使って変わり方を調べようとして、変わり方のきまりを見いだそうとしたりする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	178	○2つの数量を順に変化させて、その和の変わり方のきまりをみつけて問題を解くことができる。	・変化する2つの数量の和に着目して、変わり方のきまりを見つけて解く問題	
	2	179	○2つの数量を適当なところから順に変化させて、その差の変わり方のきまりをみつけて問題を解くことができる。	・変化する2つの数量の差に着目して、変わり方のきまりを見つけて解く問題	

活 わくわく算数ひろば					指導時数・時期
					3時間 (授業内 3時間) 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	
●見積もりを使って	1	180	○切り上げや切り捨てを使って結果を見積もり、判断することができる。	・切り上げや切り捨てを使った見積もり	
	2	181	○簡単に計算できるように切り上げや切り捨てを使って結果を見積もり、判断することができる。	・計算の工夫を伴う切り上げや切り捨てを使った見積もり	
●算数ラボ	3	182～183	○変数の演算子と整除の条件判定の命令を組み合わせて、ある数の倍数を見つけるプログラムをつくることができる。	・倍数を見つけるときのプログラミング	

* 復習					指導時数・時期
					1時間 (授業内 0時間) 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	184～185	○既習事項の確認と持続	・復習	・授業外で取り組む。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

13 場合を順序よく整理して					
目 標					指導時数・時期
○ 場合の数について、落ちや重なりのないように図や表を用いて調べたり場合を整理して考えたりすることを通して、場合の数を求めたり条件にあう場合を見つけたりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					9時間 (授業内 7時間) 2学期制：1月中旬～1月下旬 3学期制：1月中旬～1月下旬
(知) ・組み合わせや並べ方を順序よく整理することができる。また、落ちや重なりのないように調べるためには、観点をきめたり、図や表を工夫したりして調べればよいことを理解する。					
(思) ・組み合わせや並べ方を順序よく整理し、落ちや重なりのないように調べる方法を考えることができる。また、すべての場合のうち、条件に合うものを考え、判断することができる。					
(態) ・落ちや重なりのないように調べることの重要性に気づき、観点をきめたり、図や表を工夫したりして順序よく整理しようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
じゅんぴ	—	255	○既習事項の理解を確かめる。	・5年「整数」	・p.255の「㊸じゅんぴ」に取り組み、QRコンテンツやp.284の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
(課題設定)	1	186	○試合の組み合わせ方を考えることを通して、場合の数について調べていくという単元の課題をつかむ。 ○いくつか選んで組み合わせるときの場合の数が何通りあるかを、順序よく整理して求めることができる。	・場合を順序よく整理することへの学習の動機づけ ・落ちや重なりのないように順序よく整理して、組み合わせ方を調べること	・予習として、p.186の問題に取り組み、本単元の学習内容の見直しをもつ。 ※本時の学習後であれば、p.191の「練習」の問題1・2は授業外で取り組ませることが可能。
①場合の数と調べ方		187			
	2	188	○選ばないものに着目して、組み合わせ方が何通りあるかを考えることができる。	・補集合の考えが使える場合の組み合わせ	※本時の学習後であれば、p.191の「練習」の問題3は授業外で取り組ませることが可能。
	3	189	○並べ方が何通りあるかを、順序よく整理して求めることができる。	・落ちや重なりがないように順序よく整理して、並べ方を調べること	
	4	190	○いくつか選んで並べるときの場合の数が何通りあるかを、順序よく整理して求めることができる。	・全体からいくつかを取り出す場合の並べ方	※本時の学習後であれば、p.191の「練習」の問題4は授業外で取り組ませることが可能。
●練習	5	191	○学習内容を確実に身につける。	・練習	・授業外で取り組む。(授業内 0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
②いろいろな場合を考えて	6	192～193	○起こり得る場合を順序よく整理して、目的に合う場合を選ぶことができる。	・すべての場合を挙げてそれぞれの結果を調べ、条件にあうものを見つけて解く問題	
	7	194	○起こり得る場合を順序よく整理して、目的に合う場合を選ぶことができる。	・同上で、2通りの考え方で解決できる問題	

	8	195	○起り得る場合を分類、整理して、問題を解決することができる。	・場合の重なりを分類して考える問題	
学びのまとめ	9	196～197	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり、活用問題	・「たしかめよう」「ふりかえろう」は授業外で取り組む。「たしかめよう」については、QRコンテンツやp.283の解答を参照して答え合わせも行う。(授業内0時間) ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。

思 図を使って考えよう

目 標					指導時数・時期
○ 文章題において、問題場面を図に表して全体と部分の割合に着目して解法を考えることを通して、全体を1として割合を考える考え方を使って解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2時間 (授業内2時間) 2学期制：2月上旬 3学期制：2月上旬
(知)・線分図を使って、全体を1としたときの割合の意味を理解することができる。					
(思)・全体を1としたとき、線分図を使ってそれぞれの部分が割合でどのように表されるかを考えることができる。					
(態)・全体を1として考えるよさが分かり、それをうまいようとする。					
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
	1	198～199	○全体を1とし、部分の割合の和を考えて、問題を解くことができる。	・全体を1とし、部分の割合の和を考えて解く問題	
	2	200～201	○全体を1とし、部分の割合の組み合わせを考えて、問題を解くことができる。	・全体を1とし、部分の割合の組み合わせを考えて解く問題	

活 わくわく算数ひろば

					指導時数・時期
					3時間 (授業内2時間) 2学期制：2月上旬 3学期制：2月上旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
思 すごろく	1	202～203	○与えられた情報をもとに仮説を立て、それを検証して問題を解くことができる。	・推論を重ねて条件にあう場合を見つける問題	
●みらいへのつばさ	2	204～205	○表やグラフなどの資料から必要な情報を選択し、国際協力についての問題を解決できる。	・表やグラフなどのよみとり、情報選択 (つばささんの国際協力についてのメモ)	・本時の学習後、p.206の「めあて」を確認して、自身の生活を見直して気づいたことを整理する。
	3	206～207	○国際協力の課題を話しあい、課題解決に向けた計画を考える。	・国際協力の計画を立てる活動	・計画をつくる活動は授業外で取り組む。(授業内0時間)

* 6年のまとめ (算数パスポート)

					指導時数・時期
					15時間 (授業内6時間) 2学期制：2月中旬～3月中旬 3学期制：2月中旬～3月中旬
小単元	時	ページ	目 標	学習内容	授業外で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
とびら	—	208～209	○既習事項の確認と持続	・学び方とレーダーチャート	
1 数と量	1 ～ 3	210～212	○既習事項の確認と持続	・6年間の総復習	・授業外で取り組み、p.231の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援するなどの定着度の確認と必要な補充を行う。(授業内1時間)
2 計算と見積もり	4 ～ 6	213～215	○既習事項の確認と持続	・6年間の総復習	・授業外で取り組み、p.231の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援するなどの定着度の確認と必要な補充を行う。(授業内1時間)
3 図形と量	7 ～ 9	216～219	○既習事項の確認と持続	・6年間の総復習	・授業外で取り組み、p.232の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援するなどの定着度の確認と必要な補充を行う。(授業内1時間)

4 変化と関係	10 ～ 12	220～223	○既習事項の確認と持続	・6年間の総復習	・ 授業外 で取り組み、p.232～233の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援するなどの定着度の確認と必要な補充を行う。(授業内1時間)
5 データの活用	13	224～225	○既習事項の確認と持続	・6年間の総復習	・ 授業外 で取り組み、p.233の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援するなどの定着度の確認と必要な補充を行う。(授業内1時間)
6 問題の見方・考え方	14 ～ 15	226～227	○既習事項の確認と持続	・6年間の総復習	・ 授業外 で取り組み、p.233の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援するなどの定着度の確認と必要な補充を行う。(授業内1時間)
・中学校で学ぶ「数学」の簡単なしょうかい	—	228～230	○中学校数学への接続	・負の数、関数、証明、定理、確率、統計の紹介	

★ ひろがる算数

ページ	学習内容	授業外 で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
234～248	・アート×算数 ・音楽×算数 ・スポーツ×算数 ・古生物×算数 ・おかし×算数	※児童の関心に応じて柔軟に扱う。

★ 学びのサポート

ページ	学習内容	授業外 で取り組める 学習活動例と指導上の留意点
250～255	・じゅんぴ	・単元前の「じゅんぴ」に組み込み、QRコンテンツやp.284の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
256～275	・もっと練習	・本時の補充として「もっと練習」に組み込み、p.285～287の解答を参照して答え合わせも行う。 ※児童がわからなかった問題があれば、個別に支援する。
276～297	・算数資料集	※授業内・外問わず、必要に応じて適宜確認させる。

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。